

社会と組織の仕組みを知り、就業意識を高める
キャリアデザイン入門講座

自らのキャリアを拓くために必要な覚悟と思考・行動習慣
～ 社会人としての第一歩を踏み出すための準備～

2011年5月11日

日本能率協会 学校経営支援センター 研究員
有限会社ソフィアート 代表取締役

竺原 雅人

キャリアデザイン入門講座(説明会資料)

1. キャリアコンピテンシー開発の必要性
2. キャリアデザインの前に ~モノの見方、考え方~
3. キャリアデザインに必要な要素
4. 就業意識と就業力を支えるスキルから
～一例として「情報感度を高め、情報を活用する力」～
5. 就職先選びにあたっての留意点
6. 会社を知るためのヒント
7. 「社会人基礎力」(経済産業省)について

【オプション】 ビジネス基礎スキル講座の例

竺原雅人(じくはら まさと)

有限会社ソフィアート代表取締役。経営教育コンサルタント。上智大学大学院(教育社会学/博士前期課程)修了。学校法人産業能率大学(総合研究所)にて、社会人向け教育事業に携わる(研修プログラム開発、企業・団体への普及・提案活動)。後に事業部門、広報部門、開発部門、生涯学習部門等で人材戦略研究会の実施、各種イベントの企画・実施、人事評価及び昇進・昇格システムの設計、昇格試験作成、論文審査に従事。2000年からはコンサルティング会社NDC(現ニューチャーネットワークス)にてビジネスリーダー育成研修、経営幹部向け研修の企画実施。2003年から現職。主な研修テーマとして、経営・マネジメント研修全般、事業戦略、ビジネスマインド醸成、管理職~中堅社員~新入社員向け講座、コーチング、ロジカルシンキング、キャリアコンピテンシー、職種転換支援など。キャリアデザインに関する論文として、「大学から企業へ、組織の中での自己成長 - キャリア開発とその支援における留意点 -」(研究代表:武内清上智大学教授 「大学の「教育力」育成に関する実証研修 - 学生のキャンパスライフからの考察 -」(平成19~21年度文部科学省科学研究補助金(基盤研究(B))、研究成果・最終報告書 (課題番号19330187) 平成22年2月所収、などがある。

1. キャリアコンピテンシー開発の必要性

キャリアコンピテンシーとは、「自らのキャリアを切り拓いていく力(そのベースとなる思考・認識のあり方、行動特性等)と言える。意識化し、習慣化することで開発される。

近い将来に直面しうること【学生時代】

- ・いつまでも内定が得られぬまま時間が過ぎていく
- ・自分をどう売り込んでよいかわからない
- ・借り物の知識を背負って動いても、すっきりしない
- ・志望先の会社の本音や実像が見えない

悲観主義に陥らないためにも、「計画された偶発性」(Planned Happenstance theory) などが参考になろう

突如として迫られる決断【就業後】

- ・予期せぬ出来事、偶然の出来事との遭遇
- ・将来の事業リスク(統廃合、撤退など)
- ・場合によっては、非正規もしくは想定外からの出発
- ・転職 / 転進の可能性

自問自答し自分の拠りどころとなるもの(基軸)をつくる

楽観的な態度を学び、精神的にタフになる(焦ると良い結果は望めない)

視野を広げ、好奇心をもって関心を広げる

ほか…

この定義はかなり広範なものである。同概念については、たとえば小杉俊哉「キャリア・コンピテンシー」日本能率協会マネジメントセンター、2002年や高橋俊介「キャリアショック」東洋経済新報社、2000年などが参考になる。いくつかの企業では「キャリアコンピテンシー研修」が実施されている。

2. キャリアデザインの前に ~モノの見方、考え方~

モノの見方を広げる

- 相対化、客観視する
- 多面的な見方、異論に接し、その背景、根拠を問うてみる
例: 経済見通しについて異なる論説を比較、評価する

-長期(先)を見て、短期(間近)を見る

自動車の運転、ボウリング競技の場合: 目線はどこに向けているか?

視野を広げるための活動

旅に出る、世界を見る、遊び心を持つことでユーザー視点を養う

オプティミズムを学ぶ

断られたとき、自分自身にどう問いかけるかという説明スタイルを学ぶ

就業後は目の前の仕事に精一杯で、狭い世界だけにしか関心が向かず、結果として自らの飛躍の芽を摘んでしまう人も散見される(過剰適応、ガラパゴス化)。学生時代にこそ、柔軟に、興味、好奇心を持って多様な世界を見ておきたい。

3. キャリアデザインに必要な要素

自分の将来のキャリアをデザインするといっても、“極めて限られた”時間・情報・金銭・体力という制約のもとで行わなければならない。

キャリアをデザインするにあたって、まず必要なことは次の3つであろう。

「自らの意思(漠然としたものであれ、自分の価値観の自覚)」

「社会経済の潮流の把握(企業や業界の理解)」

「(自分ならではの)能力・適性の発見」

キャリアデザインのためには上記を探るとともに、並行して、これらを支える基礎力(スキル)を身につける地道な取り組みが肝心である。

将来をデザインする場合、歴史(縦)や、異なる世界(横)の仕事と生活を知っていると発想の幅が広がる。希望する職業の歩みやその変遷などの歴史的視点があるとその職業に必要な覚悟を感じ取ることができよう。

かつて「企業の寿命30年説」が言われたことがあった。親世代の人々の認識は往々にして一昔前のイメージを引きずっていることが多く、職業キャリアをデザインするための情報としてはマイナスに作用することもある。

自分の意思を確認するうえでは過去の足跡が参考になる。自分が一番充実し気持ち良いと感じたときは、どんなとき(何をしたとき)であったのだろうか。

4. 就業意識と就業力を支えるスキルから

一例として、「情報感度を高め、情報を活用する力」

膨大な情報、操作された情報、歪曲された報道の数々

- マスコミ情報を鵜呑みにしない。その背景を読み解く

未知のことについては身近な人的情報に依存する傾向がある

- 人的情報は、当人の経験や価値観、メンタルモデルに左右される

情報の収集: 極めて主体的な活動

就職活動においても、ネットで検索する力のみならず、聞く力(聞き分ける力、インタビューして聞き出す力、本質を迫及する力)が必要になる。

事前の情報収集、仮説設定、その検証が肝心

授業やゼミは情報収集力、情報活用力を養うための絶好の機会

情報の4段階を意識する()

データ インフォメーション インプリケーション ジャッジメント

「だから、何なのか(どうすればよいのか)」(So What?)と展開させること

5. 就職先選びにあたっての留意点

会社や業界についての勘違い

- ・趣味、興味と就職は別物である
例：旅行好きだから旅行業界？ 子ども好きだから教員志望？
 - ・イメージと実態の違い
例：マスコミ関連業界だと思ったらまったく大違い
就職人気ランキングに見る虚像と実像
 - ・企業は変わる(成長・発展、進化、変身、衰退、買収・売却など)
地元企業に入社。社名や本社が変わり、いつの間にか外資系に…
社名と実際の業態の違い、部門ごとの特性、拠点による違い
- 今や、個々の企業の力が問われる時代
-若手 / 中堅リクレーターが知っている情報は氷山の一角程度のもの
-知られざる有力企業、将来性あり、自分にとって働き甲斐のある企業が
きっとどこかにある
-生き方は「会社員」だけではない

6. 会社を知るためのヒント

「公表された情報」だけで会社の姿を決めつけない。本当に知りたいこと(情報)は聞き出さないと入って来ない。情報を探るためには周到な準備が必要である。

- ・人事(採用)部門の意識と現場、経営陣との意識は同じではない
採用担当者の発言は必ずしも企業を代弁しているとは限らない
- ・同じ会社でも、職種特性の違い、カルチャーギャップは大きい
- ・それぞれの事業特性を理解し、その事業に携わるという覚悟をもつこと
- ・新卒者向け情報よりも転職者向け情報に会社の特性が現れやすい
- ・断片的な指標に惑わされないように！(女性管理職比率、離職率など)
批判的な思考で、その背景、意図を読み取る

昨今、企業・組織においては、

- ・業務の専門高度化、細分化、高速化の進展
モジュール化、デジタル化の加速
「隣のことはわからない」人が増えている
- ・適材適所より適所適材の傾向



人(年齢 / 世代)、企業・組織、事業による意識「差」が大きい

7. 「社会人基礎力」(経済産業省)について

ここで示す社会人基礎力(経済産業省)は、実際に企業の中間管理職層においても強化すべき課題として認識される。こうした力を養ううえで、大学教育(特にゼミナールや諸活動)は絶好の機会である。学生時代に、基礎力を身につけるための習慣づけ、そのための意識づけを後押しすることが大切。

(1)前に踏み出す力(アクション)

~一步前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力~

(2)考え抜く力(シンキング)

~疑問を持ち、考え抜く力~

(3)チームで働く力(チームワーク)

~多様な人々とともに、目標に向けて協力する力~

前に踏み出す力は、根性論や知識ではなく、成果を意識し、的を射た行動シナリオを描くこと(力)を必要とする。自覚と継続的な取り組み、その支援が将来の「力」となる。

【オプション】 ビジネス基礎スキル講座の例

社会人(ビジネスパーソン)に必要とされるスキル(特に就職活動や自己成長の基盤となる普遍的スキル)を実習を通して学ぶことをねらう。いずれも一朝一夕では身につけられないものであるため、基本的な枠組みを提示して実習を繰り返し、思考・行動の習慣化をめざす。

思考・分析に関するもの

「ロジカル・シンキング」講座など

・前提を問う、情報を整理/分類する、論理を組み立てる

「ビジネス思考と利益感覚養成」講座(いわばビジネスの文法を学ぶもの)

発信・表現に関するもの

「ビジネスプレゼンテーション」講座(口頭表現、スピーチ)

「ドキュメンテーション作成」講座(ビジネスライティング)

社会人として必要な基本動作など

「ビジネスマナーの基本」講座

上記のミックス講座

キャリアデザイン入門講座

~補足資料~

特長

本講座は、就職活動が本格化する前の大学生を対象に、これからどのような準備が必要なのかを理解してもらい、今後必要となる取り組みを後押しするものです。企業・団体への就職に際しては、大学生としての資質や、将来性が問われます。魅力ある人材となるために必要なことを把握し、自分を磨くためのポイントを明確にして学び続けることが大切なのです。

大学生がキャリアをデザインするためには、まず、次の3つのことが欠かせません。

ビジネスのフィールドとその特徴を知ること

(視野を広げ、ビジネスのルール、業界・事業特性や職種イメージを知る)

ビジネス社会で必要となる基礎力を養うこと

(学業を充実させることで、“調べる力”や“考える力”を身につけ、職業人に要求される基礎スキルと基本動作を身につける)

自分を知り、人生に向き合う態度を涵養すること

(キャリアを拓くための意思、基軸をつくる)

これらに関して、セメスター講座、または集中講座を通して、学生に体感しながら学んでいただきます。

< 特 長 >

学生の主体的参加を引き出す双方向型プログラム（ゼミ形式・対話形式）

- ・ 受身ではなく、自らのキャリア（あるいは人生）を切り拓く積極的な姿勢を促す
- ・ 具体例の提示と様々な問いかけを通して、学生の視野を広げ、“気づく力”を養う
- ・ 講座での気づきを次なる行動に促し、学生（学業）生活の充実を後押しする

知識習得の過程で、関連スキルが同時に身に付く仕組み

- ・ 聞いて知るだけでなく、自分で仮説を持って、行動する（調べ、検証する）習慣をつける
- ・ 膨大な情報に振り回されること無く、調べるための手順や物事を整理・分類する視点を学ぶ
- ・ 調べたこと（図書、インターネット、インタビュー）をまとめ、発表し、質問に答える相手（=お客様）の視点でドキュメントとプレゼンテーションを工夫・改善する

将来の職業の基盤となる幅広い社会観を育む構成

- ・ 歴史的視点、グローバルな視点、社会人になるに際して必要なルールやマナーを学ぶ
- ・ 大学教育で学んだことや教養を社会生活においてどのように生かしていくかを考える
- ・ 社会人として職業生活に必要なとされるマインドを醸成する

プログラム例



参画実習型(対話形式)で進めることを想定しているため、1クラスあたり20名以内(ゼミのイメージ)が望ましい。学生からの質問すべてに即答するのではなく、質問の仕方や、その答えを見つけるための調べ方をアドバイスする。事前準備(2~3時間程度の予習)は必須。各単元の終了時に次回までの準備について指示をする。輪番で発表を求める。テキストは用いず、毎回レジュメを配付する。その他、必要に応じて参考図書、資料等を紹介する。毎回、講座終了時には各人にリアクションペーパーの提出を求め、次回にそれを反映した総括コメント、補足説明をする。最終回にはレポート提出を求め、講師は受講者にコメント(アドバイス)をつけて返却する。

	学習トピック例	学習過程で身に付くスキル(例)
社会・経済の仕組みと動向を知る	<ul style="list-style-type: none"> 世界の動き、社会・経済の仕組み 新聞を読み解く 	<ul style="list-style-type: none"> 事実をもとに論理的に思考する力 新聞・ニュースから本質を探る力
企業・団体、組織の仕組みを知る	<ul style="list-style-type: none"> 企業とは何か、株式会社の仕組み 大企業と中小企業、非営利団体 	<ul style="list-style-type: none"> 企業の歴史と活動を理解する力 概念を整理・要約し、図解する力
業界・業種を知る	<ul style="list-style-type: none"> どんな業種・企業があるのか 業種ごとの特性、産業界の歴史 	<ul style="list-style-type: none"> 情報を収集する力(資料を読む力) 調査結果を文書にまとめる力
職種・資格、仕事を知る	<ul style="list-style-type: none"> どんな職種・資格があるのか 働き方の違い、正社員と非正規社員 	<ul style="list-style-type: none"> 情報を収集する力(インタビューする力) 調査結果をまとめて説明する力
働くことの意味を考える	<ul style="list-style-type: none"> なぜ働くのか 社会で活躍するために必要な力とは 学問と仕事とのつながり 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをわかりやすくまとめる力 プレゼンテーション力、質問する力

©JMA & Sophiart, Inc

各回、講義、事前課題の発表、ディスカッション、まとめて構成する。

講師からのメッセージ



【就職を希望する1,2年生へのひとことメッセージ】

社会・経済の「仕組みを知る」ことに加え、世の中の「動向を知る」こと、好奇心をもってアンテナを張っておくこと

- 日本の全貿易額(輸出入合計)に占める割合の変化
米国は13%程度にまで低下、中国(本土)が20%、拡大CHINAでは30%、アジア全体で50%
- 技術のデジタル化とともに、かつて日本のお家芸であった家電製品等(DVD、カーナビほか)で国際シェアが急低下
韓国、台湾、中国企業の躍進、国際的分業の進展
日本だけの視点に捉われないこと

世の中には、マスコミにあまり出ない知られざる企業、業種が少なからずあること

- マスコミで取り上げられがちな日本を代表する業種や大企業以外に元気のよい企業や働き甲斐のあるところもある
- 有名企業や人気業種について誤ったイメージで仕事をとらえて、早々と退職する人も少なくない
どんな業種があるか、具体的に挙げてみよう

大学での勉強の中にこそ、自分の力を伸ばすヒントがあること

- 将来、どこでも必要となる論理力、調査力、情報収集力の基本は大学の学業を通して伸ばすことができるもの
- 本物の知識、ものの考え方の基本を今、学生のうちに身につけることが大切。卒業後は誰も教えてくれない

聞く(聴く)力、聞き出す力、仮説を持って質問する姿勢、仮説を持つための情報収集が大切であること

- 世の中には情報が溢れている。情報を鵜呑みにしてはならず、その真偽、妥当性を見極める力を養う必要がある
- よい質問はよい答えを引き出す。意図を持って質問することが大切であり、そのためには準備、訓練が欠かせない

企業からの期待は一律ではない。人事・採用部門と経営層、現場の違いを認識し、受け止めること

- 大切なのは、学ぶ力。継続的に学び、自らを伸ばす力。大学生に即戦力は期待していない
- やるべきことをやっていたら、焦ったり、周囲の動きに振り回されることはない。悲観論からは何も生まれない

自分の強み、良さは素外、自分では気がつきにくいものである。診断ルール等で安易に適性を決め付けないこと

- 嫌い、苦手と思っても、指示・命令され(配属され)やってみて、その仕事が好きになったり、適性を発見することがある
- したがって、限られた情報だけで進路をあまり狭くとらえすぎないことが肝要である

©JMA & Sophiart, Inc